

安全で安心な住みやすい町づくり



【宮根学区】

■世帯数：3,708 世帯

■人 □：8,510 人

■面 積：0.698 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

学区全域において、「安全で安心な住みやすい町づくり」を進めている。延べ参加者数は 500 人。

- ・ 空き巣防止の看板表示
- ・ 防犯パトロール
- ・ 街頭での交通事故防止キャンペーン
- ・ 登下校時の小中学生見守り活動
- ・ 年数回の交通防犯会議

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

交通防犯会議の開催や各種キャンペーン、チラシの配布、各町内会・自治会での呼びかけで、地域住民の意識が高まった。

2 きっかけ、背景

千種区内でも有数の住宅地であり、数年前までは空き巣等の犯罪が悩みの種だった。また、周辺の道路整備で区域外から学区内を通り抜ける車も多くなり、交通事故も増加したため、犯罪の防止や交通事故撲滅を目的に乗り出した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 40 人

(2) 他団体との協力

小中学校 PTA、消防団、民生委員児童委員、学童保育所、老人会など

(3) 運営協力

町内会・自治会ごとにリーダーを養成している。老若男女を問わず参加してもらうようにしている。

4 実施のスケジュール

毎年度、当初に学区内で年間スケジュールを立てるほか、毎月 1～2 回の町内会・自治会の会議で地域内の防犯、交通事故状況を周知徹底している。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識の高まり。この取組みにより学区内の犯罪や交通事故は激減、平成 23 年 4 月には愛知県警本部長から感謝状を受けた。

(2) 苦労した点

参加者の確保。最初は役員の仕事と考えている人が多かった。いまでは一般の人たちもキャンペーンに参加するようになった。

(3) 今後の課題・展望

担い手の世代交代。高齢化社会で今後、若い世代の参加、意識の高まりをどうするかが課題。

